

新企画! 「聴く力」アップ・セミナー開催



組合員みなさんに、子どもや保護者への対応、職場の上司や同僚とのコミュニケーションアップのために、効果的な「聴く」コツを知っていただくこと、県教組は「『聴く力』アップ・セミナー」を12月27日（火）、国際交流会館にて開催しました。

当日は、年の瀬ながら、県内各地より50名近い参加があり大盛況でした。講師には、メンタルケア協会より「指導精神対話士」の輿石邦彦氏をお招きしました。先生は、様々な

具体例をあげながら、優しく丁寧な語り口調で、「聴く」姿勢の理解や「聴く」ことの基本技術などについて分かりやすく説明してくださいました。また、8名の「メンタルケア・スペシャリスト」の組合員の方にも、悪い聞き方と良い聞き方の見本を実演して下さるなど、さらに「聴く」ことの理解が進んだのではないかと思います。



〈参加者の感想〉



ペアワークの様子

○よかれと思って相手に質問したり、アドバイスをしたりして、結果的に相手の口を閉ざしてしまっていたことが数多くあったと反省。

○相手の価値観や感情を大切にしながら、相手の気持ちを理解しようと耳を傾げることの大切さを痛感。

○人の心に寄り添うことの第一歩は「聴く」ことだと思った。

○聴くこととは、対話を通し対象者が自分の力で心の変化を引き出して、前向きになるよう支援することとわかった。



MCSの実演

今、超勤・多忙化等が原因で精神疾患で休職される方が増えています。メンタルケアにより、学校現場で苦しむ先生が少なくなることを望んでいます。県教組は、現場の声を聴きながら、教職員の働きやすい環境づくりになるよう運動をすすめていきます。

